

仏教三大法会と浄蓮寺所蔵仏画

仏教三大法会とは、灌仏会(かんぶつえ:4月8日)、成道会(じょうどうえ:12月8日)、涅槃会(ねはんえ:2月15日)の3つの法会(ほうえ)のことです。

全国各地の寺院で、お釈迦さまの遺徳を偲ぶ法会が営まれます。平安時代末期に日照りや疫病の流行などによる社会不安が高まり、その際に極楽浄土を願う浄土信仰が貴族や庶民へ浸透しました。この信仰が隆盛するとともに、法会が仏事として定着していきました。



上に掲載の仏画は、浄蓮寺第16世坊守・末武百合子が出資して仏画家・藤野正観(ふじのしょうかん)氏に制作を依頼、令和2年(2020)9月に完成したものである。

釈迦誕生図は4～6月、降魔成道図は10～12月、釈迦涅槃図は1～3月の間、門信徒会館玄関に展示されます。